

熊本県の取り組み

「有明海・八代海干潟等沿岸海域再生 検討委員会における検討について」

有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会

「委員会報告～有明海・八代海干潟等沿岸海域の再生に向けて～」より

1 有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会報告書について

熊本県では、干潟、藻場等の沿岸海域の再生方策を科学的知見に基づいて検討するため、土木工学や生物学等の学識者及び一般住民・漁業代表者で構成する「有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会」を平成16年8月に設置し、地域特性に応じた再生方策の検討を諮問するとともに、委員会の検討に当たって必要な水質、底質、干潟・藻場、水産業の状況等の様々なデータや他の海域での再生の取組み事例等を収集し、既往資料で不足する部分については、漁業者や沿岸住民からの聞き取り・アンケート調査等を実施し基礎資料とした。また、委員会では、具体的に再生方策を検討するためにケーススタディー地区を設定し、地元の方々と委員が直接意見の交換を行うことで再生方策検討の参考とした。

2 委員会における検討の進め方

委員会における検討の進め方を図2.4.1に示す。

2.1 既存資料の収集・整理

社会環境、自然環境など、多様な項目について資料の収集を行い、現状、過去からの変遷（戦後1950年以降、現在までの資料）について整理を行った。

2.2 聞き取り調査

既存資料では十分に整理できない項目について把握するため、熊本県の沿岸域漁業者を対象に聞き取り調査を行った。調査は、主に過去の干潟や海域の状況、及びその年代について聞き取りを行い、その結果を図化するとともに、年表として整理した。

2.3 アンケート調査

聞き取り調査は漁業者を対象に行ったが、漁業者だけでなく一般住民を含めた幅広い層の意見を収集するため、内水面漁業者、沿岸域住民、一部の沿岸域漁業者には、アンケート調査を行い、河川流域の状況、過去の干潟や海域の状況について把握した。なお、当アンケート調査は、漁業協同組合や自治体より推薦を受けた代表的な方々を対象に実施しているため、統計的な調査ではない。

2.4 現地調査

海岸線の調査は現地踏査を行い、満潮時・干潮時の海岸前面の状況、護岸の状況、後背地の状況について記録し整理した。また、生態系の豊かさを表す指標となる塩生植物の分布状況を、一級河川の河口部を中心に調査した。

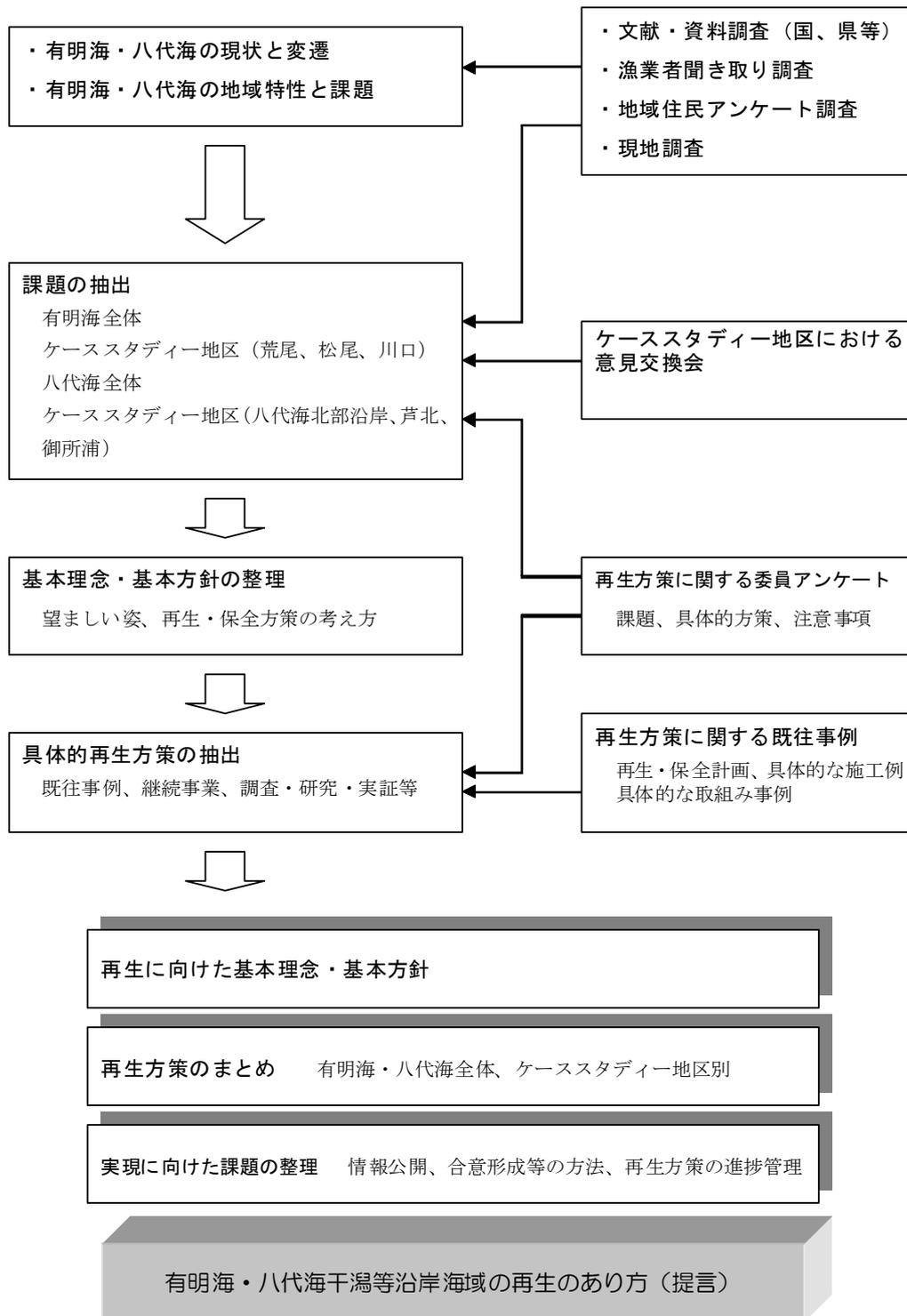


図 2.4.1 委員会における検討フロー

2.5 干潟等沿岸海域の再生方策に関する事例や文献の収集・整理

干潟等沿岸海域の再生に関して、全国各地で行われている事例や関連する研究文献等について、熊本県の状況に類似しているものを中心に収集・整理した。

2.6 ケーススタディ地区における意見交換会

具体的な再生方策を検討するに当たり、干潟等沿岸海域の地域特性について代表的な特徴を持つ6つのケーススタディ地区を選定し、各地区において地元の方々と委員が直接意見の交換を行った。

3 検討結果(抜粋)

3.1 聞き取り調査・アンケート調査結果

熊本県の沿岸域漁業者を対象に行われた聞き取り調査、一般住民を含めた幅広い層の意見を収集するため、内水面漁業者、沿岸域住民、一部の沿岸域漁業者に行ったアンケート調査結果を図 3.3.1 に示す。

3.2 ケーススタディ地区の選定結果

有明海・八代海の環境特性からみたゾーニングを行い、ゾーン毎の課題を基に、委員へのアンケート等からケーススタディ地区を設定した結果を図 3.3.3 に示す。

3.3 有明海・八代海の再生方策

既往資料調査、聞き取り調査、アンケート調査、現地調査及び各ケーススタディ地区における意見交換会の結果を基に委員へのアンケートを行い、有明海・八代海及び各ケーススタディ地区の課題を整理し、再生方策を検討した。

有明海・八代海全体及び各ケーススタディ地区の再生方策は、目標(望ましい姿)を達成するための課題を解決するための方策とその事例を整理した。

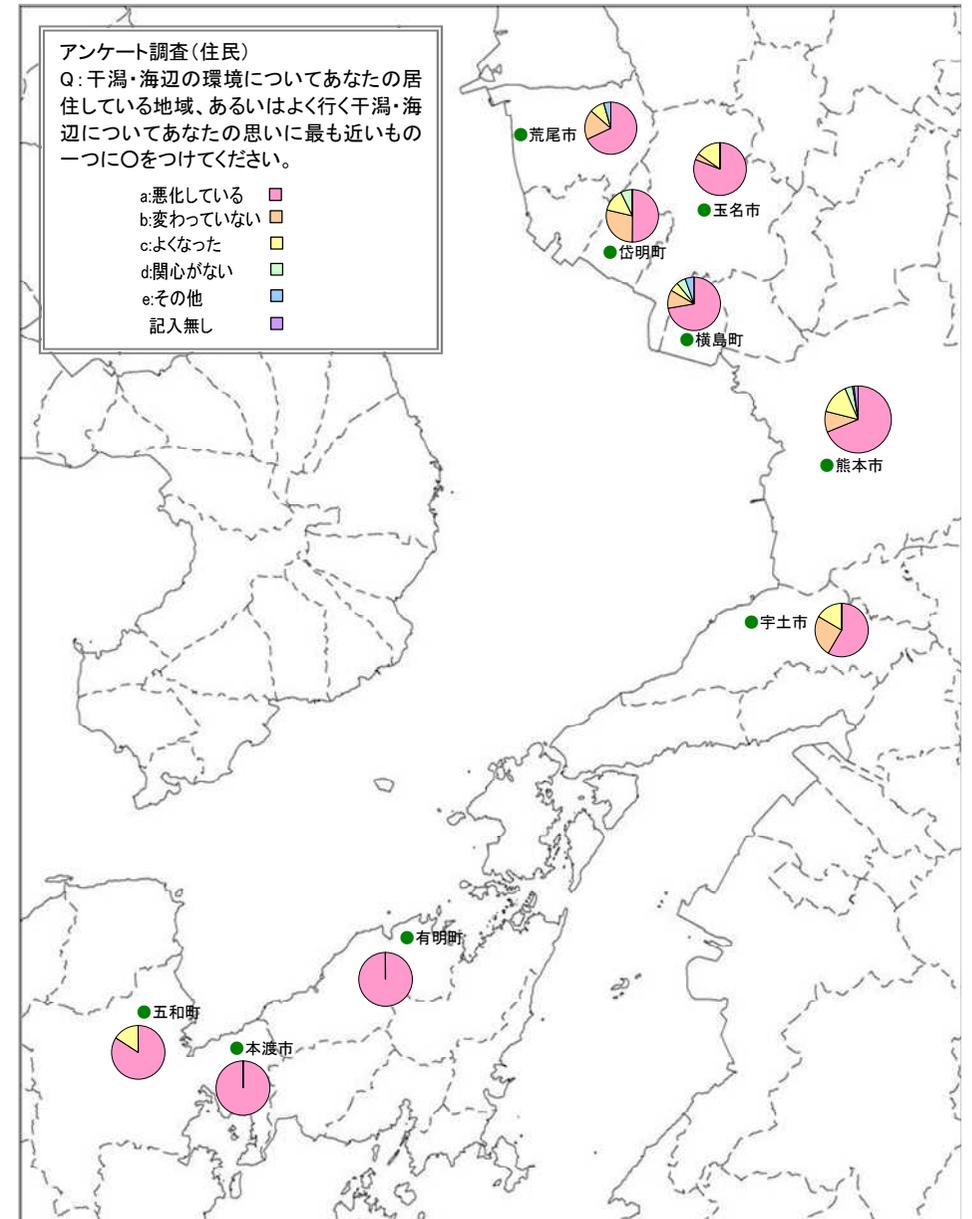
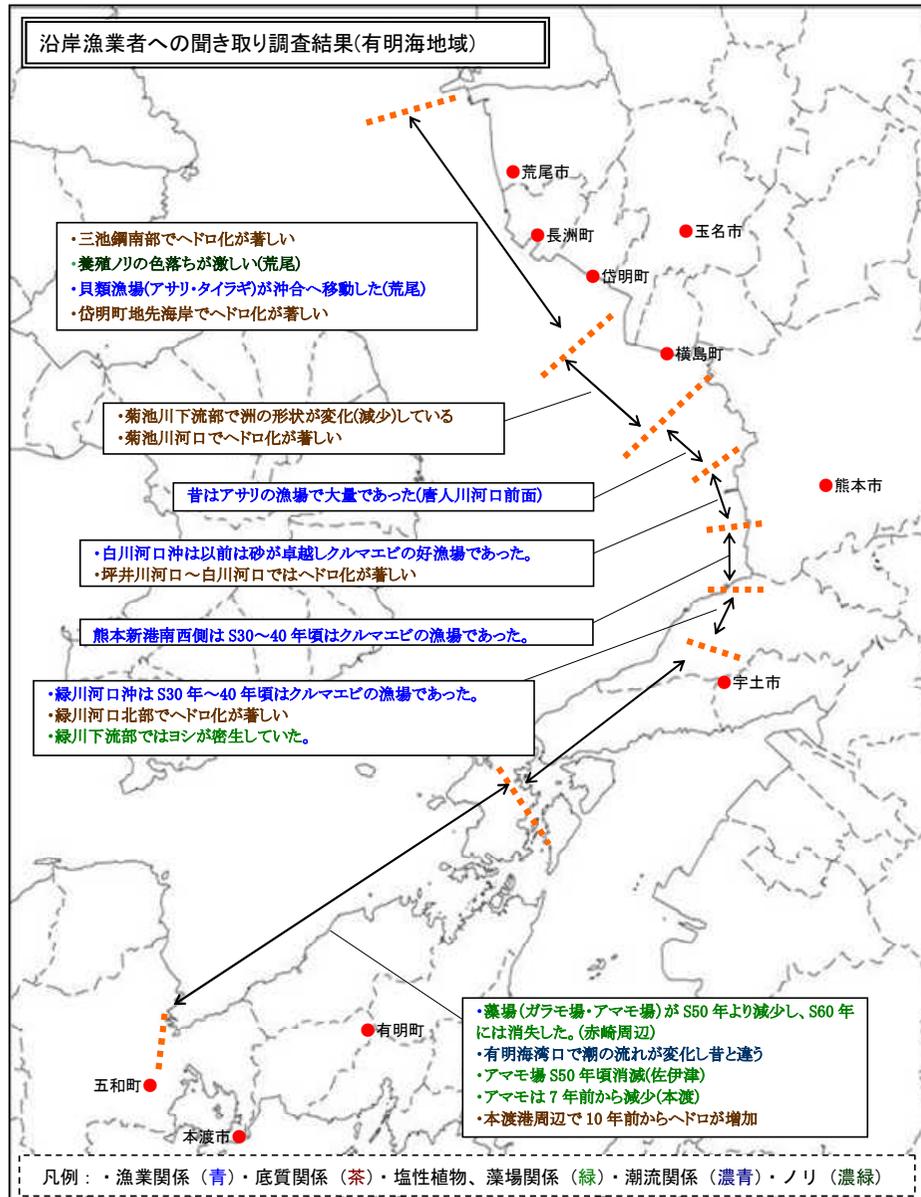


図 3.3.1 (1) 聞き取り調査・アンケート調査結果(有明海)

沿岸漁業者への聞き取り調査結果(八代海地域)

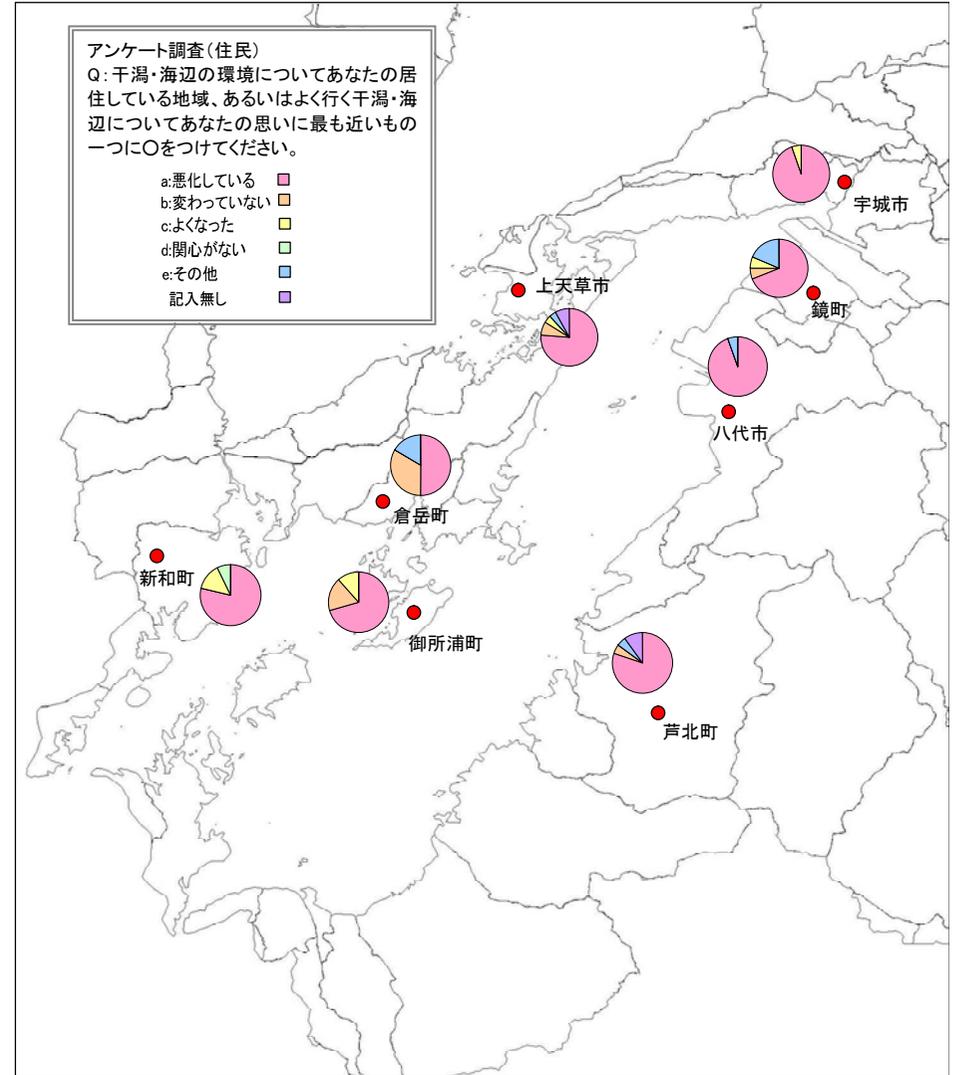


図 3.3.1 (2) 聞き取り調査・アンケート調査結果(八代海)

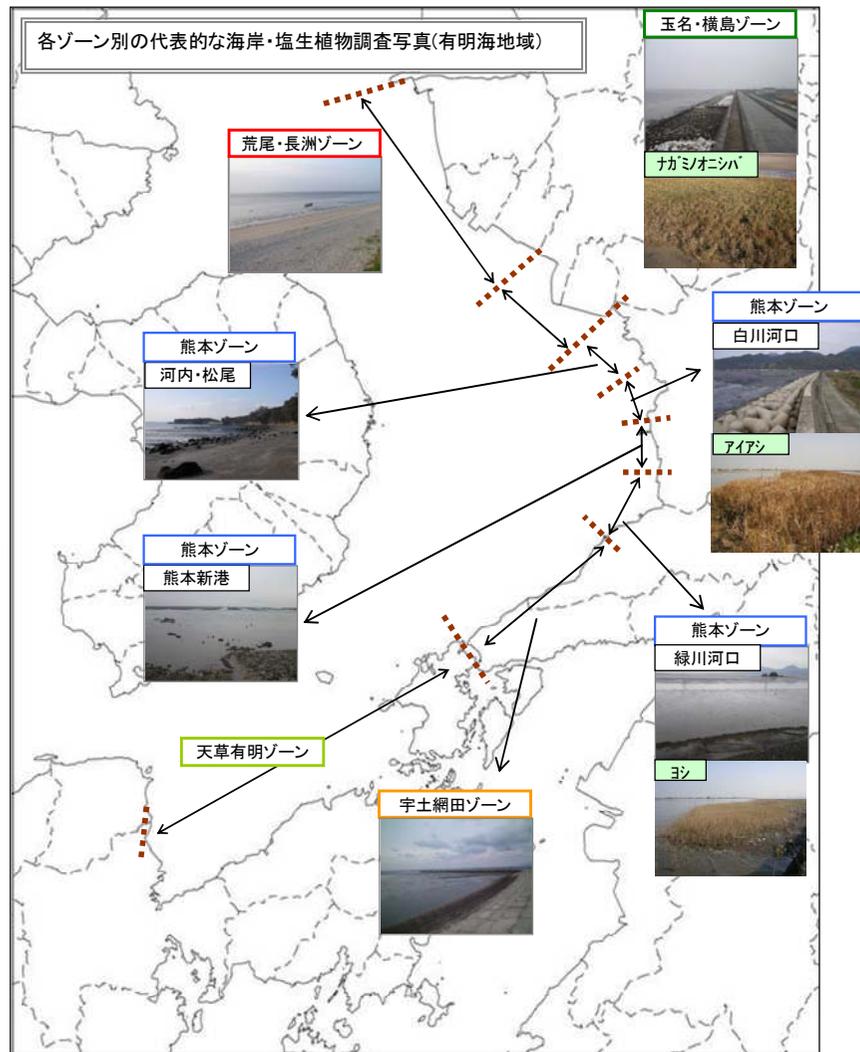


図 3.3.2 海域特性から見たゾーン区分結果

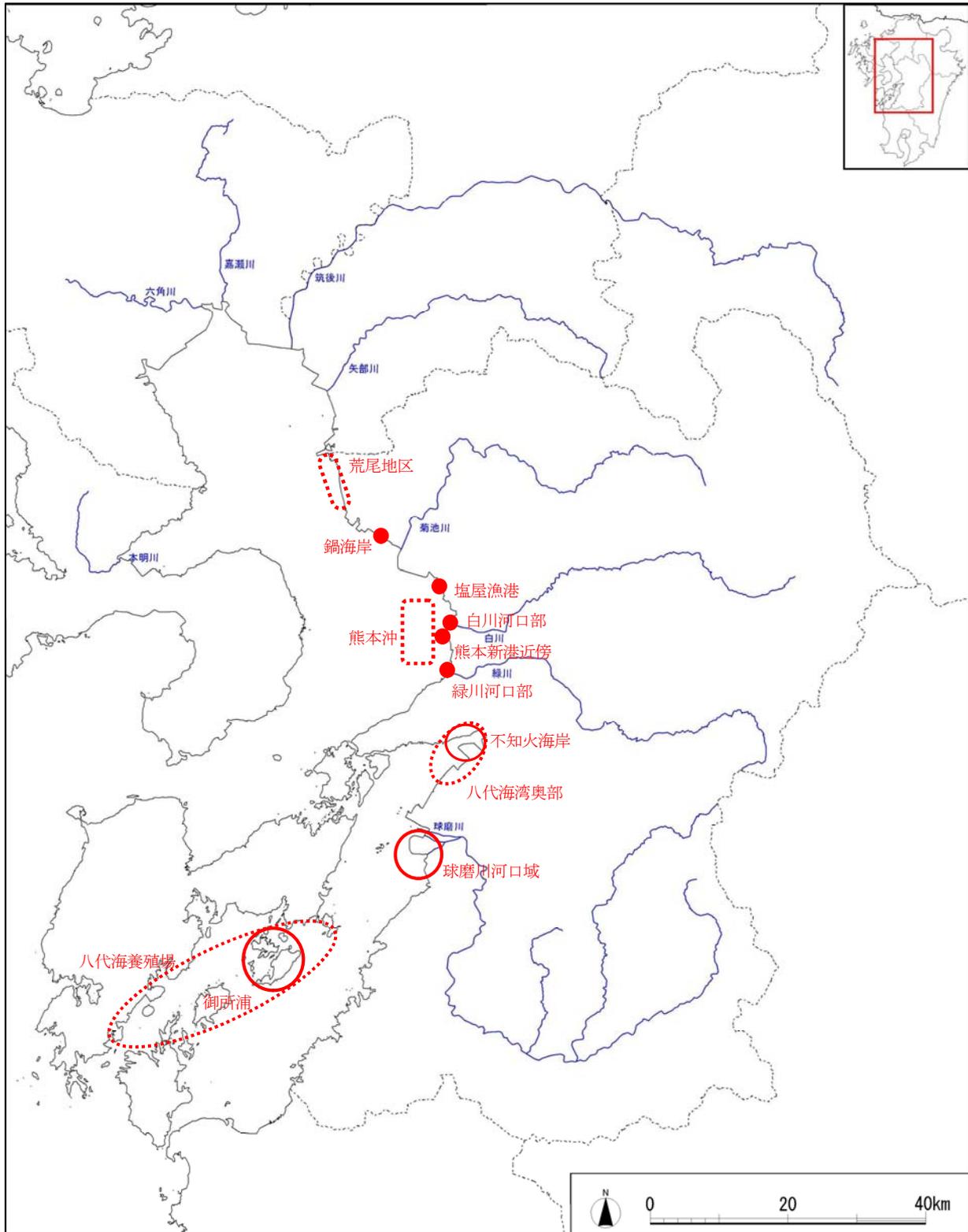


図 3.3.3 ケーススタディ地区設定結果